



チャンスを活かせ。

GDWS 企画推進機構長 苗村健教授インタビュー

GCL 座談会開催

第二回 SICT シンポジウム開催報告
GCL キックオフガイダンス開催

チャンスを活かせ。

苗村健教授 インタビュー
(GDWS 企画推進機構長)

GDWSでは、さまざまなコミュニティから人々のニーズを吸い上げる手段として、ワークショップの体得を目指しています。ワークショップの運営は、本を読めば理解できるというのではなく、経験を積むほどうまくなるスポーツのような側面があります。東京大学の中では、学術面の学習は多くありますが、ワークショップなどの体験学習といった側面は今まで重視されていませんでした。教員は、「学生時代にこんな授業があればよかったのに」という信念をもってGDWSを企画・実行しています。

ICTはいわば方法論の集まりであり、さまざまな解決方法を提供できます。これに対して、例えば震災復興の現場では、解決すべき問題が沢山あります。この中には、現場にICTの専門家が行けば解決できる問題が多く含まれるわけです。GCLでは、ICTを軸としたソーシャルイノベーションを通して社会を良くすることを目的としており、そのための手段としてワークショップが活きてきます。逆に、未来のワークショップを目指したICT研究の可能性もあります。今までワークショップの結果のみが重視されてきましたが、ICT技術の発達によりワークショップの経過（プロセス）をしっかりと記録して再利用できるようになってきました。経過の記録を用いることで、ワークショップをより効果的に運営することも期待できます。

昨年は第1期ということで、コース生の皆さんにワークショップを理解してもらうことを重視してきました。情報学環の水越伸先生を実践リーダーとして、GDWSの分類で言うと、方法論の習得を目指したA、および実践的な演習であるBの2つに注力してきました。

これに対して今年はさらにGDWSの参加し易さの改善、教育体制の強化、博士研究に活かせるようなワークショップの充実の3つを実現していきます。GDWSのために毎月第3土曜日に英語講義をいれないようにしたこと、新たなスタッフとして山口情報芸術センターにてワークショップを実践なさってきた会田大也先生をGDWSに迎え入れたことがはじめの2つにあたります。3つ目についてはワークショップのCを指しています。単にワークショップをやるだけではなく、これをさらに各コース生の研究を推進する場として使ってほしいと考えています。博士論文が最終目標であるGCLにおいて、ワークショップで忙しくて論文を書けないという事態は本末転倒です。なので、ワークショップをしながら一粒で二度美味しい使い方をしてもらえるように、特に博士課程の学生には期待しています。

ワークショップやインターンを前面に掲げるGCLには、同じ志を持った面白い人が集まっています。このようなコミュニティでの出会いを大事にしてください。GCLの教員としては、コース生の皆さんがGCLで様々なチャンスを掴んでいくことを期待しています。本専攻の勉強だけでも卒業はできますが、それに加えてGCLを選んだコース生のみなさんには、次々挑戦して欲しいと思います。

(聞き手：柴山翔二郎 撮影：金子和正)

■第2回 SICT シンポジウム



講演する安西氏(左)と重木氏



4/9(水)に伊藤謝恩ホールにおいて、ソーシャルICT研究センターの主催による第2回シンポジウム「ソーシャルICTの研究展開と高度人材育成」が開催されました。

GCLプログラム責任者の坂井修一情報理工学系研究科長が「日本、世界を我々の手でリードしたい。また、リードする人材を生み出したい」と開会の挨拶で述べた後、日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏をはじめとする講演者たちが講演を行いました。

基調講演を行った安西氏は、「大学の役割と人材育成」をテーマとし、『『低コスト大量生産追いつき追い越せ国家』から『アジア最初のイノベーション国家』への変貌を、大学がいかに支えられるか』と問題提起し、平山小学校でのICTを利用した学びの事例などを挙げ、チームワークでもって問題に取り組む経験の必要性を述べました。東大の博士課程リーディングプログラムについて、「しっかりやられているように思うが、2点課題がある」とし、①関係する教員以外にいかんか②プログラムの学生を支えるようなキャンパスの雰囲気をついていかんか、が課題だと指摘しました。

「ソーシャルICTの課題と推進体制」をテーマに講演した國吉康夫教授は、基調講演を受けて「思いや方向性は間違っていないと思いつつも、努力の必要性というのを痛感した」と答えました。ソーシャルICTということを出した背景に、「アベノミクスで一息ついたような感じがあるが、金融政策だけで根本的に変わったわけではなく、日本の産業のモデルをいま転換しないと本当

に沈没してしまう」という危機感があると述べました。従来の理工系の研究室の特徴であった、研究室で作り上げたシーズを大事にするというかたちではなく、社会のシステムそのものを変えていこうとする発想が大切だと強調しました。この講演に続いて、ソーシャルICT研究センターにおける研究内容として、大西立顕准教授、橋田浩一教授、山口利恵特任准教授がそれぞれの研究テーマについて講演しました。

休憩を挟んだ後、第2部では日本電子計算社長・経団連高度情報通信人材育成部会長の重木昭信氏が「産業界が求める高度情報通信人材の育成」をテーマに特別講演を行いました。経団連がこれまでどのような問題意識を持ってきたのかを述べ、これからの課題として「日本では、高度人材の発掘、育成とともに、(特別に才能を持つわけではない)普通のイノベーション人材の確保が必要」「そのためには、個人の能力だけではなく、様々なレイヤーでの組織能力の強化が必要」としました。

続いて、國吉康夫教授が再び登壇し、GCLプログラムについて説明を行いました。「先端ICTを基軸とし複数専門分野を統合、新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザイン、社会イノベーションを先導するトップリーダーとチーム」を目指す人材として掲げ、これを育成するための方法として、5年間の密着多元評価の存在を挙げました。

室田一雄情報理工学系研究科副研究科長の閉会の挨拶で、シンポジウムは幕を下ろしました。

■キックオフガイダンス開催



GCLコース生への期待を語る國吉教授

2014年4月15日(火)18:30-20:00に新GCLコース生キックオフガイダンスが開催され、今年度からGCLに入った修士1年生、博士編入生に向けて、GCLの様々なプログラムについて説明が行われました。

それぞれの授業やプログラムを担当している先生から、プログラムについての詳しい説明がなされ、どういった意図で設計されているか、どのような態度でこれから取り組んでほしいか、について話がありました。

下記の項目について、担当の先生からガイダンスがありました。それぞれの先生が話されたメッセージを共に掲載します。

・GCLの概要(國吉康夫 GCLプログラムコーディネータ)
『『清く正しく美しく』。『清く』とは、自分が得をするかどうかではなく、世の中のために、ということ。『正しく』とは、多くの人に影響があることは正しくやらないといけないということ。『美しく』とは、自分のスタイル・審美眼を持ってやろうということ。』

・GCLのカリキュラム(萩谷昌己 GCLプログラム副コーディネータ)
「今の自分に何が足りないかを考え、その要素を補う授業を積極的にとってほしい。そのためのカリキュラムを提供する。」

・英語講義(中山英樹 英語講義担当)
「英語が話せるということは当たり前。どれだけ深いコミュニケーションができるかが重要。」

・GDWS(苗村健 GDWS企画推進機構長)
「ワークショップを手段として使えるようになろう。」

・密着多元評価(松尾宇泰 評価担当)
「GCLは普通の教育過程とは違う。要領よく要件を満たす人ではなく、自分のビジョンをもち、GCLを使って価値ある活動ができる人であってほしい。」

・インターンシップ・年間予定表(浅見徹 プロジェクトインキュベーション機構長)
(浅見徹 プロジェクトインキュベーション機構長)
「テックトークでは企業の人と知り合いになってほしい。博士課程の就職はネットワークが大切。」

その後、工学部3号館に新しくできたGCLラボで、GCLコース生同士の交流を深める懇親会が催されました。懇親会には修士2年も含め、多くのGCLコース生が参加しました。自分の特徴を書いた付箋を何枚か体に貼り付けて自己紹介のツールにするなど、ユニークな仕掛けが用意され、盛り上がりました。

■ M1/M2 座談会



GCLで何ができるのか、GCLで実現したいことは。そんなテーマで、M1・M2のコース生計8名による座談会を実施しました。コース学生の、生の声をお届けします。

参加者一覧（以下、敬称略）

- ・岩尾俊兵（経済学研究科・M2）
- ・笹渕一宏（学際情報学府・M2）
- ・澁田朋未（医学系研究科・M2）
- ・青木翔子（学際情報学府・M1）
- ・清水あやこ（教育学研究科・M1）
- ・朴柄昊（工学系研究科・M1）
- ・山崎久慶（教育学研究科・M1）
- ・横山萌（教育学研究科・M1）

——どうしてGCLに入ろうと思われたのですか？

岩尾：なんで入ったかは、もうよく覚えていません。時間が濃密すぎて（笑）。ひとつ言えるのは、自分の専攻に加えて、幅広く社会と接点を持ちつつ、人脈を広げられる点に魅力を感じたからです。

笹渕：もともと博士に行くことを考えていました。その中で、最先端のICTと絡めて自由に研究を進めることができる環境に魅力を感じました。

澁田：私の場合は、医療・介護に対する問題意識を持

ちつつ、どうやって解決すればいいか探るため、GCLに入りました。今は、GCLでの経験から、ICTの医療への活用を研究しています。

青木：研究しながら、より実践的な活動に携わりたいと思い、GCLに入りました。研究の分野に加え、社会で活躍できる人材育成という点に惹かれました。

清水：専攻している臨床心理学という分野は、まだまだICTを使って開拓できるとしています。GCLでICTのことを学び、研究に活かしていきたいです。また、働いていたときに培った英語力などを落とさずとも、グローバルな視点を持ち続ける点でも、GCLは魅力的でした。

朴：とにかくチャレンジしようと思って、入ってみました。「やらないより、やった方がいい」と思っています。特に魅力的なのは、海外に行ける点ですね。

山崎：いじめの研究をしていく中で、近年特に問題になっている「ネットいじめ」を理解するためにも、ICTのことを学びたいと思い、GCLに入りました。

横山：自分の可能性が広がりそうだと感じたからです。他の分野の方と交流できるチャンスがあるのは魅力的でした。将来的には、「臨床心理士×ICT」のような分野で、活躍できればと思っています。

——1年間GCLをやってきて感じる、GCLの魅力とは何でしょうか？

岩尾：とにかく、いろいろな分野の人がいます。彼ら/彼女らと交流できることは、何よりも大きな魅力だと思います。また、社会を変えていこうという意欲の強い人が多く、起業している人も多いです。実際、僕も起業しましたね。

笹渕：まだ制度が整っていないからこそ、自由に活動できるのが、魅力のひとつだと思います。実際、GCLラボを作るといったことも学生からでた企画です。今は、五月祭に向けて、研究と絡めた「ロボットカフェ」を計画中です。

澁田：海外に行くことができたのは、非常に良い経験でした。ICTを通じてフィリピンの社会課題を解決するという1ヶ月ほどのプログラムに参加しましたが、これはGCLのコース生が発案したものです。こうやって、学生主体で、いろいろなプログラムを作れるのは、GCLの魅力のひとつだと思います。同時に、他の専攻の学生と交流できるという点も魅力でした。実際に、1年間を通して、専攻以外の知見に数多く触れることができました。

——M1の方から、今後GCLでやってみたいことはありますか？

青木：研究に軸足を置きつつ、教育関係のWebサービスを開発したいです。GCLインターンシップと絡めて、外部の機関と連携しながら、実現していきたいと思っています。



清水：まだ他のGCLコース生と繋がる機会が少ないので、Facebookなどを使って、まずはそういうコース生同士が交流する場を作りたいですね。

朴：海外インターンシップに参加したいと思っています。特に、世界のリーダーが集うアメリカに行き、リーダーシップとは何かを学びたいと思っています。

山崎：僕も海外に行きたいと思っています。フィンランド等ではいじめ防止プログラムが進んでいるので、実際に現地に行って研究をしていきたいです。

横山：ICTのことを学び、臨床心理という専門の中で、自身の幅を広げていきたいです。具体的な活動については、先輩の意見も聞きながら、これから見つけていきたいと思っています。

——最後に、M2の方から、GCLで活躍してく上での秘訣を教えてください。

岩尾：GCLのコミュニケーション・ハブのような存在になることが大切だと思います。こういった機会をうまく使って、多くのGCLコース生と繋がるような存在になれば、どんな企画も実現できるようになるでしょう。

笹渕：自身の研究とGCLの活動を、うまく関連づけることが重要ですね。情報系の研究だと、比較的GCLの活動が直接結びつきやすいのですが、そうでない専攻の方もいると思います。うまくテーマを設定していくことが大切だと感じます。

澁田：視野を広げてみるために、いろいろな活動に参加してみるのではないのでしょうか。授業にしても、ICTのみならず、法律・経営・リーダーシップと、幅広いジャンルのものが開講されています。そこで学んだことは、自身の研究にも活かされていくと思います。

——コース生の皆様、本日はご参加いただきありがとうございました！

■ イベント告知

◆ 2014/05/09 GCL インターンシップ連絡会

下記の日程で、インターンシップ募集企業による説明会と、GCL インターンシップに関する情報交換会を開きます。

なお、サマーインターンシップと通年インターンシップに関しては、情報理工一般学生にも開かれていますので、奮ってご参加ください。

日時：5月9日（金）16:00-17:50

会場：工学部3号館1階の電気系セミナー室 2&3
（弥生門側の入り口から入り、左手）

概要：

1. サマーインターンシップ説明会

情報提供企業：NTT、日本マイクロソフト株式会社、LINE 等

対象：GCL コース生（修士1年生，RA），その他情報理工学系研究科所属学生

2. 通年インターンシップ説明会

情報提供企業：NTT、日本マイクロソフト株式会社、LINE 等

対象：GCL コース生（修士1，2年，博士1年生，RA），その他情報理工学系研究科所属学生

3. GCL インターンシップ情報交換会

GCL インターンシップ生のなんでも相談コーナー

対象：GCL コース生（修士2年，博士1年生）

以上

情報理工学系研究科ソーシャルICT研究センタープロジェクトインキュベーション室長

GCLプロジェクトインキュベーション機構長 教授 浅見徹

なお、6月4日には第2回説明会も開催されます。

◆ 2014/05/14 Global Design Seminar：マイクロタスク特化型 Yahoo! クラウドソーシングの現在と今後の展望

Global Design Seminar を下記のとおり開催いたします

す。

本講演会は、GCL プロジェクトインキュベーション機構、特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター、東京大学ものづくり経営研究センターの共催により開催されるものです。

参加方法：学生無料。事前申込みが必要です。定員になり次第締め切ります。

申込方法を含めて、詳しい内容については下記サイトをご覧ください。

特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター コンピュータ産業研究会 <http://merc.e.u-tokyo.ac.jp/shintaku/comken/info.html>

タイトル：マイクロタスク特化型 Yahoo! クラウドソーシングの現在と今後の展望

講演者：中川雅史氏

（ヤフー株式会社 メディアサービスカンパニー 大阪サービス本部）

日時：2014年5月14日（水）19:00～21:00（Q&A 含み，開場 18:30）

場所：東大本郷キャンパス内のものづくり経営研究センター 5F

（<http://merc.e.u-tokyo.ac.jp/mmrc/access/index.html>）

主催：特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター コンピュータ産業研究会

共催：GCL プロジェクトインキュベーション機構／東京大学ものづくり経営研究センター

連絡先：コンピュータ産業研究会（akeyama@mmrc.e.u-tokyo.ac.jp）

なお、その他の講演に関する情報は

<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/category/events/>

を参照してください。

〈問合せ先〉

GCL プロジェクトインキュベーション機構 (pim@gcl.i.u-tokyo.ac.jp)

編集・発行：

情報理工学系研究科・GCL 広報企画

（森友亮（情報理工 D1）、荒川拓（学際情報学府 M2）、金子和正（工 B4）、柴山翔二郎（工 B4）、須原宜史（工学系 D2, 3月まで））

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部 8号館 621 号室 GCL 事務局

E-mail：pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp